

安心した暮らし こまちダム定



宝生流光雲会の謡曲



小野博康こまちダム地権者会長

鎮定の儀



こまちダムとふれあう一日参加者の皆さん

十月二十四日、建設が進むこまちダムを見学するイベント「こまちダムとふれあう一日」が、工事現場で行われ、来場者が現場を見学など、ダムの役割に理解を深めていました。

こまちダムとふれあう一日

福島県、こまちダム建設促進協議会、こまちダム安全衛生連絡協議会が共催したものです。

日常では入ることの出来ない工事現場が開放され、家族連れらが、将来はダムの底になる場所などを見学したり、工事に使われている高さ七十メートルの二百トンクレーンや、ダムの土台部分を間近に見て、その大きさに感嘆していました。

また、クレーンをバックに記念撮影も行われました。工事現場に設置されたテントには、ダムや工事を紹介するコーナーが設けられ、建設現場から縄文、弥生時代の住居跡や土器などが発掘されたことから、遺跡教室も開催されました。出土物を観察したり、縄文時代の火起こしや狩の体験をとおし、子供も大人も楽しくふるさとの歴史にふれていました。

特に、火起こし体験では、子供たちも大喜びでした。

また、ダム定礎式のPRコーナーでは、定礎式に使われる記念碑の重さ当てクイズや、ダムのコンクリートに使用する石に夢や希望などの記念メッセージを書いてもらうイベントが行われ、来場者は楽しみながらこまちダムに親しんでいました。

式が行われることは、当町の長年の念願でありました治水対策、利水対策への第一歩であり、こまちダム完成のあかつきには、町進展に大きく貢献するものと確信いたすところであります。」とあいさつ。町議会議長の音頭による乾杯の後、定礎を祝して、秋元光一さんらによる宝生流仕舞がおそかに披露されました。

最後に、こまちダム地権者会長の発声により、出席者全員で、早期完成を祈願し、万歳三唱を行いました。こまちダムは、洪水調節、水道用水供給、既得取水の安定化、河川環境保全のための流量確保を目的に、福島県が事業主体となり建設を進めており、平成十八年度の試験湛水を経て十九年度からの供用開始を目指しています。



3 広報 おのまち

ふるさと石と児童たち



記念式典であいさつをする町長